



# ハート・プラス通信

～内部障害者・内臓疾患者の暮らしについて考える～

2016年2月20日 No.34 <冬号>



【配信元】NPO 法人 ハート・プラスの会  
【連絡先】事務局 E-mail: [info@heartplus.org](mailto:info@heartplus.org) FAX 052-718-1581  
【ホームページ】 <http://www.normanet.ne.jp/~h-plus/>

## 会員様からの投稿

### 「楽しみ」

〔大阪〕 田中さん

こんにちは。田中由里です。

私は、病気（拡張型心筋症）になる前から、甲冑隊で活動していましたが、ペースメーカー（埋込み型ICD）が入って初めてのイベントに参加した時のことです。

### 【一昨年秋】

柏原で行われた、ガチ合戦 鉄砲隊・槍隊・刀・槍・ケンカ？で、私は槍隊でした。相手は、ガチ（ガチンコの略）の方で、フランスから来られた「武闘家・特殊部隊にいた方」などです。もちろん、甲冑隊は素人なんで、それなりに戦います。

合戦が始まり、相手のところまで走り、槍で戦う！わくわく！テンションが上がります。ICDの設定の脈拍数を超えてしまい、ICDが作動してしまいました。槍が当たってもないのに、吹っ飛んでしまいました。ニコニコ。周りも、ビックリして、慌てて

救急車を呼びました。が、本人（私は）思ったより、ケロツとしてい

て、救急隊員の方に、見てもらいましたが、全てが正常範囲。とりあえず、病院には行かず、そのまま残りました。【合戦出たかったから】



【いざ出陣】

隊長には、剣武とガチ合戦は出場禁止され、ただ見るだけになりました。そう、本番前にICDが動作してしまいました。リハールで作動してしまいました。私は、出られないことの方がショックで、悔しくて、涙がポロポロでした。

夕方、ガチ合戦が終わってからは主治医の先生に診てもらいましたが、特別異常なし。結果は誤作動でした。ペースメーカー担当の方にも設定をやり直してもらい、担当者は

頭を抱えて悩んでました。次回合戦する時は言ってください。設定変更しますと言われちゃいました。ペースメーカー担当のおじさん、めっちゃ悩んでました。（すみません）

後日はICDで電気ショックを受けた左腕に力が入らず、筋肉痛で痛かったですけど、痛みはすぐに治りました。

今のところは、少々激しい殺陣をしてもICDの作動なしで過ごしています。でも、また出来たら、槍隊したいです。楽しいもん（\*）

今は、殺陣を習いに行ってますが、少々サボリ気味です。ちなみに、殺陣の道場ではヒーローショーのアクションも教えてくれるのですが私はアクションは出来ません。

### 【家族でポーズ】



## 「30年です」

〔千葉 園部さん〕

23歳から透析を受けるようになり、今年30年目に入りました。幸いなことに、自分で日常生活を送ることができています。血管の状態も良く、穿針時のトラブルもありません。



## 「NPOマネジメント」

### 講座を受講して!

〔奈良 岩井さん〕

奈良市ボランティアインフォメーションセンターで、8月29日・9月13日・9月26日とNPOマネジメント講座があり、徳永理事と一緒に受講しました。この講座を受講した団体の内、6団体が1月16日に発表を行いました。



週3回、雪でも嵐でも通院しなくてはならないことはとても大変です。主人が亡くなった日も透析を受けなくてはならず、その時の4時間は本当に長く感じました。

人生半世紀を過ぎたころから、少しずつ体力が落ちてきたことを実感しています。10年以上勤めていたバイトを先日辞めて、今は通っている病院の患者会で活動しています。糖尿病から透析になっ

てしまう方が多勢います。糖尿病の方は、本当に体を大切にしてくださいと言いたいです。

今後は、住んでいる沿線の私鉄にこのハート・プラスの活動を紹介していきたいという夢をもっています。これからも水分制限と食事制限を頭において(たまに?忘れませんが)前向きに生きていきます。まずは、東京オリンピックを見ることが目指して。

「ハート・プラスの会」の発表では、「ハート・プラスの会」の概要の説明と、「わが団体のこれから」の目的・目標・手法・体制・計画を述べ、講師の川中大輔先生、奈良市のスタッフ、一緒に学んだ奈良県下のNPO団体の皆さんに感謝し、発表を終えました。

この講座は、総合的なマネジメントを実施するために必要な知識や技術についての講義と、課題認識や環境分析、計画の立案などを行うワークショップでした。参加

者の感想を頂きましたので、ここに記しておきます。

☆今回初めて「内部障害」ということを知りました。

☆奈良県でもパーキング・パーミットを実施されるようになってよかったです。

☆一般市民で知っている人は少ないと思うので、TV・ラジオ・新聞などのメディアで取り上げてもらえるよう働きかけたら効果大だと思います。

### 【募集】

体験や近況、活動報告など、皆様からの投稿をお待ちしています。連絡は、事務局又は通信編集担当まで!!

Mail : hirano@heartplus.org  
FAX : 052-718-1581



☆素晴らしい活動ですね。次の一手は、ハート・プラスマークをもっと知らしめるためにYoutubeで動画を作つて、拡散してはいかがですか? (知らないだけで、すでにあるかと思いますが?)

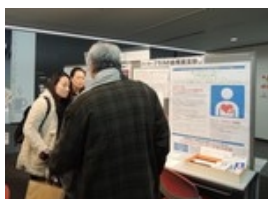
## 大阪ミニ交流会

in 奈良に参加して

〔大阪 平野さん〕

今年、第一回目の大阪ミニ交流会を奈良市の『奈良はぐくみセンター』で、1月17日の実施しました。

当日は、奈良の岩井さんがパネル展に『ハート・プラス』関係の展示をしていたり、ことになり、見学を兼ねて大阪ミニ交流会を実施する事になりました。



【パネル展  
見学者に説明中】

交流会には、奈良、京都、大阪から子供1人含む11名の参加があり、その内、初めて参加される方は4名居られたので、各自の自己紹介から始まりました。

初めての方の中で、「突然の疾病となり、病に苦しむ娘さんを何とか助けたい」との思いが感じられる家族の方とご本人の切実な話があり、戸惑い、医療に対する不

安や将来への不安等がある状況を語られました。

他の参加者の方は、戸惑いや不安を乗り越え疾患や障害と向き合っていて、暮らされている方たちで、それぞれが経験を話され、「現状を受け入れ、楽しみを持つ様に」熱く語られていたのが印象的でした。

特に女性からのアドバイスや子供さんの無邪気なしぐさに、段々と皆さんの顔に笑顔が戻って来た様に感じました。

不安や戸惑いのある方の悩みを親身に聞き、心を開かせて上げることの大切さを感じた一日でした。

最後に全員で、笑顔での記念撮影です。



【笑顔の記念撮影】

## 愛知県難病団体

連合会より

愛知県難病団体連合会より、愛知県及び名古屋市に対して行った要望活動の報告をいただきましたのでその要旨について掲載します（ハート・プラスマーク関連事項の抜粋）

### 【愛知県に対して】

①ハート・プラスマークの周知啓発（鞆などに付けられるキーホルダーなどの交付）

●内部疾患患者は外見ではわからない方が多い。「だるい」「つらい」「いたい」症状を抱えながら公共交通機関などを利用する場合もあり。

そうした時に優先席に座ると批判的な目で見られることもある。マタニティマークと同じように、鞆などに付けられるキーホルダーなどを交付してほしい。

（回答：障害福祉課、

健康対策課）

県では、ハート・プラスマークについて、毎年障害福祉課で作成し発行している障害のある方へのサービスに関する情報を冊子にま

とめた「福祉ガイドブック」へ掲載し、それをホームページに掲載するとともに、市町村等に対する会議等を通じて周知を図っている。今後とも、ハート・プラスマークの周知を積極的に行い、県民の障害に対する理解の促進を図っていく。



③パーキングパーミット制度を実施してください。

●身体障害者用駐車場を利用する際、地方自治体が利用許可証を発行する制度である。この制度を実施する自治体が多数となってきた。

（回答：障害福祉課）

既に制度を導入している府県では、メリットとして「利用対象者の明確化」や、「障害のない人による不適正利用の一定程度の減少」などがあり、一方、デメリットとして、「広いスペースが必要な車椅子利用者が停めにくくなること」や、「民間の駐車協力施設の負担増や駐車台数の不足、交付対象者の範囲や有効期間の設定」など、様々な課題がある。

このため、当制度については、民間の駐車協力施設の確保や、建

## 活動報告等

設部や市町村など関係部署と連携し、費用対効果などを勘案しながら慎重に検討する必要があるものと考えている。



【名古屋市に対して】  
①ハート・プラスマークの周知啓発（靴などに付けられるキーホルダーなどの交付）

（回答：健康福祉局障害企画課・健康増進課）

本市で毎年作成している障害福祉サービス等についてご案内する冊子「障害者福祉のしおり」の中で、「ハート・プラスマーク」を紹介している。また、その内容をホームページ「ウェルネットなど」にも掲載している。

現在、「ハート・プラスマーク」他、障害などに関するさまざまなマークが、皆様のご理解ご協力のもとで利用されているところであり、本市からの交付は行っていないが、マークの存在やその意味をより多くの方に今後も周知を図っていく。

〔代表理事 鈴木〕

### 大同生命社会貢献の会

#### 「ふれあいプレゼント」 贈呈式に出席

平成28年1月26日

〔代表理事 鈴木〕

1月26日、大阪市にある大同生命本社において、大同生命社会貢献の会が毎年取り組んでおられる障害者団体への「ふれあいプレゼント」の贈呈式が行われました。これには、ハート・プラスの会の代表理事である私鈴木と徳永理事が出席し、大同生命の広報部社会貢献活動推進担当の塚田部長より金20万円の目録が贈呈されました。



【目録の贈呈式】

大同生命社会貢献の会は、平成4年に社内に結成された役職員が自主的に参加する企業市民活動組織であり、全役職員が会員とのことです。その会員からの募金や寄付金を原資にして全国各地の障害者団体に贈呈されているとのこと。今年度は9団体に加え、東北に限定した施設等6団体に贈呈を行ったと言われていました。

そもそも、なぜ当会が選ばれたのかという理由をお聞きすると、「東北の方からこういう団体があるので是非応援してほしいという要望の声があったこと、それと取り扱っている商品の中に、心筋梗塞や脳卒中などで重大疾病となられた方のための保険も販売していることもあり、そういう方が内部障害を含む身体障害者になってしまわれることがあるので、保険会社としては無関係ではない」という判断から決定したとのことでした。

実はこの大阪本社、今話題のNHK連続テレビ小説「あさが来た」の舞台になっている加野屋こと「加島屋」がかつてあった場所に建てられています。そしてビル2階では大同生命の創業者の一人でもあった広岡浅子の生涯を知ることができる資料展示が行われています。

贈呈式後、展示会場に案内いただき多くの来場者で賑わう会場内を二人で見つきました。

「個人のためではなく社会のために」・・・浅子の精神が今も職員に受け継がれているひとつの証として、今回のような社会貢献があることを実感しました。



【展示会場のワンシーン】